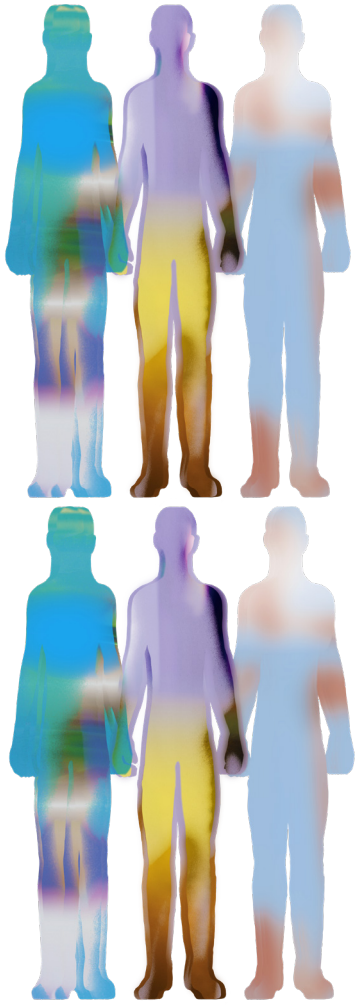
Virtual Bodies
Absence/Presence in Media

ヴァーチャル・ボディ
メディアにおける存在と不在

アグスティン・ゼハーズ／魏子涵／カルラ・レイヴァ／近藤銀河／鄭波／章梦奇／李舜／
スライム・エンジン／セバスチャン・シュメーグ＋シルヴィオ・ロルッソ＋ロレム／タクティカル・テック／
フェリペ・リヴァス・サン・マルティン／八島良子



2022.3.25(Fri)
⟶ 4.10(Sun) 10:00–17:00

東京藝術大学大学美術館陳列館
Chinretsukan Gallery (Tokyo University of the Arts)

入場は閉館の30分前まで・月曜休館
入場無料・事前予約制 ※詳細は公式ウェブサイトをご覧ください

Admission allowed until 16:30 / Closed on Mondays / Admission Free
Reservation required *Please access the official website for details

GA 東京藝術大学大学院 国際芸術創造研究科 アートプロデュース専攻 Culture Vision Japan Geidai Friends 藝大フレンズ NOMURA 野村財団

企画概要

本展覧会は、東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科（GA）において、キュレーション領域の学生が中心となり企画運営をする展覧会です。新型コロナウイルス感染禍に伴い私たちの日常に新しい生活様式が導入され、社会全体が大きく変化しはじめてから早くも２年が経とうとしています。本年度の企画展では、このウィズコロナ時代において私たちを取り巻く社会状況を包括的に捉え、また、個人というミクロなレベルで私たちが日々対峙しているに迫ります。

展覧会紹介

「ヴァーチャル・ボディ：メディアにおける存在と不在」展では、6ヵ国から集まる14名のアーティストが、ポストコロナの時代について「ヴァーチャリティ」をテーマに考察します。新型コロナ感染拡大は、身の回りの世界との関係性や自己という概念に多大な影響を与えています。現代社会におけるデジタル・メディアの領域では、SNS における二極化やフェイクニュースの政治的利用が多発しています。しかし、仕事や教育の場をはじめ、人との関わりによって成り立っている私たちの日常生活では、オンライン・コミュニケーション・ツールや各種メディアは不可欠な存在となりつつあります。こうした状況のなかで意識せざるを得ないのは、健常性、年齢、社会階級、ジェンダー、人種、スピリチュアリティや精神性を抱える私たちの身体そのものではないでしょうか。同時に、多様な可能性を提示する「体（ボディ）」という概念は、他の「体」と共生する未来を想像させます。それは動物や植物、テクノロジーやデジタル・ゴーストとの関わりのなかで、人間という姿形が解体されていくことを示しているのかもしれません。

見どころの作品

1. デジタル空間における日常会話を、アップビートな音楽と光で鑑賞者を没入させるインスタレーション《プラットフォーム・ゴースト》を国内で初公開します。本作は、展示に向けて特別にカスタマイズされています。

2.「フェイクニュース」の現象を映像とグラフィックのコラージュで表した、高さ2.5mの《ヘッドラインズ 1》を国内で初公開いたします。

3. 新気鋭のメキシコ出身アーティスト、カルラ・レイヴァの、廃棄電子チップで美容パックを模した壁一面を覆う《Máscara electrónica（マスカラ・エレクトロニカ）》を展示します。

関連プログラム

会期中のイベント
会期中展示会場にて、参加作家によるオンライントークやイベント、
共同キュレーターによるギャラリーツアーなどを予定しております。
詳細や変更については、GA のウェブサイト（http://ga.geidai.ac.jp/）及び本展の特設ウェブサイト、SNS よりお知らせします。

東京都藝術大学国際芸術創造研究 HP：ga.geidai.ac.jp
本展覧会特設ウェブサイト：virtual-bodies.com
本展覧会特設 Facebook ページ：Virtual Bodies: Absence/Presence in Media 展
本展覧会特設 Twitter: @virtual_bodies
本展覧会特設 Instagram: virtual_bodies

プレスリリース　お問い合わせ　広報担当：李静文（リ セイブン）
Tel: 080-3603-6590 Fax: 03-6846-8685 Email: vb.exhibition@gmail.com

出展作家（五十音順）

agustine zegers「filthglycerin」2017 / 2022 年
© agustine zegers, courtesy of the artist

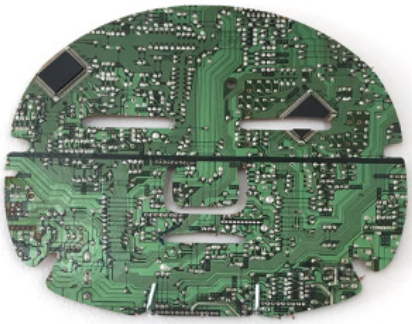
アグスティン・ゼハーズ
agustine zegers

チリ出身。ニューヨーク大学アブダビ校で美術及び美術史の学士課程修了。バージニア・コモンウェルス大学で彫刻及び拡張メディア美術修士過程修了。生物学的な観点から自身を「バクテリア・コミュニティ」と称している。「生態系の危機」と呼ばれる現代において、異なる生物間の共生に注目し、嗅覚やオブジェを用い表現を通し、研究している。

魏子涵「The Illusion of Nogeyama」2021 年
© Wei Zihan, courtesy of the artist

魏子涵
Wei Zihan

中国出身。東京を拠点に活動。中国伝媒大学で撮影を始める。武蔵野美術大学大学院写真コース修了。これまでの展示に「異なる世界への入り口」展（Canon Open Gallery）や「The Taste Of Emotion」（三影堂撮影芸術中心）など。撮影を通じて、人と人の距離、人と空間のつながり、人と環境と物体の関係に注目する。



Karla Leyva「Máscara electrónica（マスカラ・エレクトロニカ）」2021 年
© Karla Leyva, courtesy of the artist

カルラ・レイヴァ
Karla Leyva

メキシコを拠点に活動。米アンセル・アダムズ写真アカデミー（American College of Photography Ansel Adams）で写真を学び、メキシコシティの SOMA アートプログラムに参加。メキシコ国立自治大学 UNAM で神経科学、芸術、文化領域専攻修了。主にインスタレーションなど現代美術の手法を通じて、古代ラテンアメリカ圏の視覚言語と、科学技術や現代における自身の経験を結びつける。レイヴァは、こうした過去と現在の２つの世界を突き合わせたときに生じる問題や矛盾と果敢に向き合い、活動している。

プレスリリース　お問い合わせ　広報担当：李静文（リ セイブン）
Tel: 080-3603-6590 Fax: 03-6846-8685 Email: vb.exhibition@gmail.com

近藤銀河「Queer Street TUA」2020 年
© Kondo Ginga, courtesy of the artist

近藤銀河
Kondo Ginga

東京藝術大学美術学部芸術学科を卒業、現在は美術研究科先端芸術表現専攻修士課程に在籍。デジタル・レンダリング、ゲームデザイン、パフォーマンス、写真、ビデオなど分野横断的な作品を制作し、個人的経験やアイデンティティ、「強制的な健常性」（注）の概念に疑問を投げかける。

注：Robert McRuer『Crip Theory: Cultural Signs of Queerness and Disability』(2006, NYU Press)。

鄭波「Pteridophilia 4」2019 年
© Zheng Bo, courtesy of the artist and Edouard Malingue Gallery.

鄭波
Zheng Bo

中国出身の芸術家、映像監督。香港大学芸術修士課程修了。ロチェスター大学大学院でダグラス・クリンプ氏の指導のもと、ビジュアル&カルチュラル・スタディーズ博士課程修了。現在、香港城市大学クリエイティブメディア学部教授。クィア理論の観点から芸術、エコロジー批判や園芸を実践する。

Zhang Mengqi「Self-Portrait with Three Women」2012 年
© Zhang Mengqi, courtesy of the artist

章梦奇
Zhang Mengqi

中国出身のダンサー、映画監督。中国の中央民族大学ダンス専攻卒業。視覚や聴覚、ダンス、及びパフォーマンスの間を横断する表現を用いて、自身の生活を記録し、東アジアやほかの地域における女性の社会状況を捉えようと試みる。

プレスリリース　お問い合わせ　広報担当：李静文（リ セイブン）
Tel: 080-3603-6590 Fax: 03-6846-8685 Email: vb.exhibition@gmail.com

Slime Engine「Headlines 1」2020 年
Commissioned by Chronus Art Center,
Art Center Nabi and Rhizome, Courtesy of the artist and MadeIn Gallery

スライム・エンジン
Slime Engine

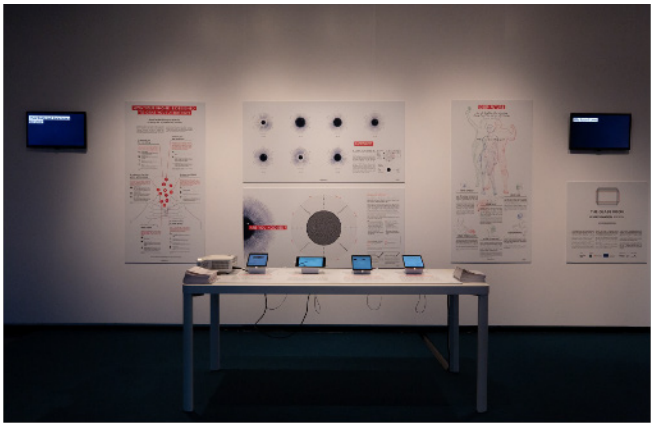
2017年結成。李漢威（リ・ハンウェイ）、劉樹臻（リュウ ジュシン）、方陽（ファン・ヤン）、善良（シャン・リャン）からなるアート・コレクティブ。デジタル・プラットフォームを開発し、ハイパーリアルな風景や非物質的な芸術空間を作り出す。プラットフォームに立ち現れる仮想的なイメージのコラージュは、日常的なデジタル・メディアの消費を精巧なパロディに仕立てている。同時に、そのユーモア溢れる表現は、現代社会において潜在的に働いている権力構造への批判だとも言える。

Sebastian Schmieg, Silvio Lorusso, LOREM「Platform Ghosts」2020 年
Photo by Hrvoje Franjić
© Silvio Lorusso + Sebastian Schmieg + LOREM

セバスチャン・シュメーグ ＋ シルヴィオ・ロルッソ ＋ ロレム
Silvio Lorusso + Sebastian Schmieg + LOREM

セバスチャン・シュメーグ
ドイツ出身。アーティスト。ベルリン芸術大学卒業。現在、ドレスデン応用科学大学でインターフェイスデザイン専攻の教授。アルゴリズムや人工知能、科学技術が現代社会における私たちの生活や自意識に与える影響について、新しいメディアを通じて表現する。

シルヴィオ・ロルッソ
イタリア出身。アーティスト、デザイナー、文筆家。IUAV ヴェネツィア建築大学でビジュアル＆マルチメディア・コミュニケーション専攻修士課程修了。同大学大学院でデザイン科学専攻博士課程修了。現在、リスボンにあるルゾフォナ大学の Center for Other Worlds の助教授及び副館長。資本主義社会における労働の賛美とその搾取性を現代のテクノカルチャーと結びつけ、日常生活のなかで使用する電子機器やインターフェースを通じて探究する。

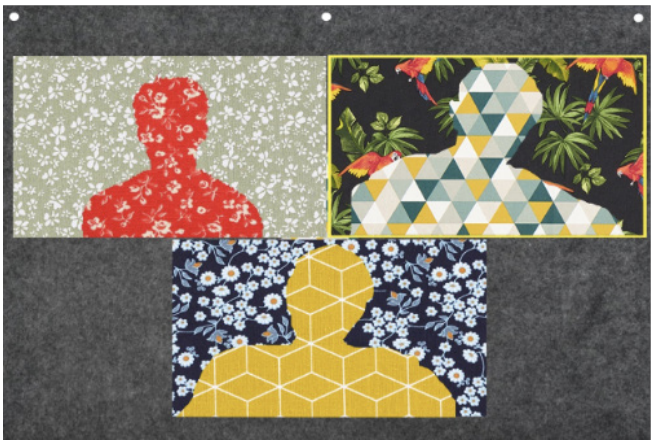


Tactical Tech「The Glass Room Misinformation Edition」2020 - 現在
© Tactical Tech, courtesy of Microwave Festival

タクティカル・テック
Tactical Tech

ドイツとオランダを拠点に活動する非政府組織（NGO）。デジタル・メディア・リテラシー・プログラムを制作する。本展では「The Glass Room ー Misinformation Edition」というプロジェクトを公開。本作は、鑑賞者が動的に学びを得ることのできる、メディア・リテラシーのワークショップである。

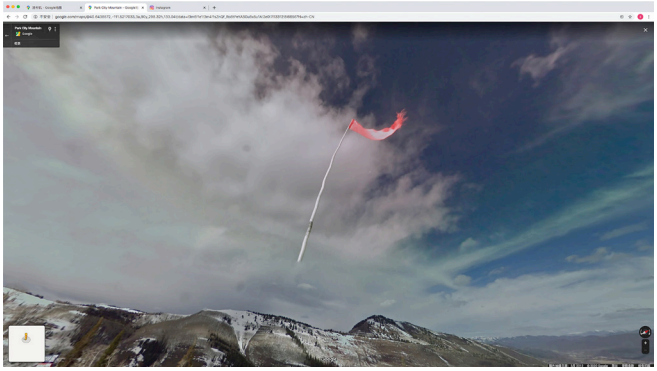
プレスリリース　お問い合わせ　広報担当：李静文（リ セイブン）
Tel: 080-3603-6590 Fax: 03-6846-8685 Email: vb.exhibition@gmail.com



Felipes Rivas San Martin「Zoom, n° 1」2022 年
© Felipe Rivas San Martin, courtesy of the artist

フェリペ・リバス・サン・マルティン
Felipe Rivas San Martin

アーティスト、政治及びジェンダー・アクティビスト。チリ大学視覚芸術専攻修士課程修了。ヴァレンシア工科大学（UPV）芸術学博士課程在籍。アルゴリズムや人工知能、今日のデジタル・メディアに見られる性とジェンダーの偏見について研究する。



李舜「Internet Sketching — 1984-Red flag flying」2020 年
© Li Shun, courtesy of the artist

李舜
Li Shun

中国美術学院インターメディアアート学部卒業。同大学大学院修士課程修了。中国を拠点に活動。これまでの展示及び作品収蔵に広東美術館、ホワイトラビット美術館（オーストラリア）、HOW 美術館（中国）、龍美術館（中国）、ZHI 美術館（中国）、Power Station of Art（中国）、杭州浙江美術館（中国）、ティチオーシャン財団（スイス）、ラジコ・マムジッチ美術館ギフトコレクション（セルビア）、北京民生美術館（中国）など。2020年中国写真年鑑、2021/2017年中国先端現代写真家 TOP20入選。JIMEI x ARLES Discovery Award 2020推薦、2015年北京民生美術館銀賞受賞。

八島良子「メメント・モモ」2019 - 2021 年
© Yashima Ryoko

八島良子
Yashima Ryoko

アーティスト。武蔵野美術大学造形学部卒業。広島県尾道市百島を拠点に活動。葛藤する精神や記憶を肉体から呼び起こすことで、平和、自由、愛など人が理想とする本質と、それに相反する現実の社会や人間の性、タブーを露わにする。

プレスリリース　お問い合わせ　広報担当：李静文（リ セイブン）
Tel: 080-3603-6590 Fax: 03-6846-8685 Email: vb.exhibition@gmail.com

展覧会情報

展覧会名	ヴァーチャル・ボディ：メディアにおける存在と不在
会期	2021年3月25日（金）- 4月10日（日）
会場	東京藝術大学大学美術館陳列館 〒110-8714 東京都台東区 上野公園 12-8 美術学部側構内
開館時間	10:00 - 17:00（入場は閉館の30分前まで）、月曜休館、入場無料　※事前予約制
主催	東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻
共催	一般財団法人カルチャー・ヴィジョン・ジャパン
助成	藝大フレンズ、公益財団法人 野村財団
共同キュレーター	アリウェン｜平河伴菜｜閻喜月｜張琳｜鄒林希｜呉昱衡｜チョ・ヘス｜金宣
特別協力	下向智也｜李静文
監修	長谷川祐子［東京藝術大学教授、金沢21世紀美術館館長］
グラフィックデザイン	邵琪

交通案内	JR 上野駅（公園口）、東京メトロ千代田線根津駅（1番出口）より徒歩10分 京成上野駅（正面口）、東京メトロ日比谷線・銀座線上野駅（7番出口）より徒歩15分 ※駐車場はございませんので、お車でのご来館はご遠慮下さい
展覧会公式サイト	virtual-bodies.com
広報お問い合わせ	「Virtual Bodies: Absence/Presence in Media」展 広報担当：李静文（リ　セイブン） Tel: 080-3603-6590 Fax: 03-6846-8685 Email: vb.exhibition@gmail.com
お問い合わせ	東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科 アートプロデュース専攻 キュレーション領域 〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8 国際芸術創造研究科教員室 Tel: 050-5525-2725（担当：知念ありさ） Fax: 03-6846-8685 E-mail: chinen.arisa@fac.geidai.ac.jp

広報用画像

以下の画像を広報用に提供いたします。
ご希望の方は下記の使用条件をお読みのうえ、広報担当までご連絡ください。

広報担当：李静文（リ　セイブン）
Email: vb.exhibition@gmail.com

[使用条件]
- 広報用画像の掲載には、各画像のキャプションとクレジットの明記が必要です。
- アーカイヴのため、後日掲載誌 (媒体)、もしくは URL などをお送りください。

以上、ご理解・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

© Shao Qi

Slime Engine「Headlines 1」2020 年
Commissioned by Chronus Art Center,
Art Center Nabi and Rhizome，Courtesy of the artist and MadeIn Gallery

Sebastian Schmieg, Silvio Lorusso, LOREM「Platform Ghosts」2020 年
Photo by Hrvoje Franjić
© Silvio Lorusso + Sebastian Schmieg + LOREM